



あいち歴史さんぽ



県立高等学校などの歴史的建造物を紹介します。



講堂外観(北西から)



講堂内部



正門(南から)

愛知県立小牧高等学校講堂及び正門

愛知県立小牧高等学校は、小牧市小牧1丁目、名鉄小牧線小牧駅の西950mに位置し、前身は大正13年(1924)に愛知県小牧中学校として開校した県内有数の伝統校です。

講堂は昭和4年(1929)に正門とともに建てられたもので、校地の南辺西部にある正門を潜って直ぐ東側に建っています。鉄筋コンクリート造り平屋建て、屋根は腰折(こしおれ)屋根で大棟と降棟に幾何学的なシャチの棟押さえを載せています。正面入口の柱型頭部には幾何学装飾のレリーフを付け、また内部にも秀逸な装飾が施されており、演壇まわりの漆喰製の装飾、木製演壇の正面羽目板のレリーフ、ブラケット照明や扉廻りの装飾などには目移りします。このように講堂は現存する県立高校旧講堂4棟の中で、特に質が高く際立っています。このことは、昭和2年(1927)に昭和天皇が、この地域で行われた陸軍特別大演習を御視察の際、小牧中学校を御高評の地としたことと関係を感じます。

国の登録有形文化財として既に保存されている正門は、間口約9.1m、4基の方形の門柱を立てて左右に脇門を付けています。門柱は鉄筋コンクリート造りの洗い出し仕上げで、高さは中央柱が約3m、脇柱が約2.5m、柱礎、柱身、柱頭の3つで構成されています。また、柱頭部分にはアカンサスの葉を用いた装飾が付いています。講堂と正門は昭和初期の教育施設の様相を後世に継承する貴重な文化財建造物です。



西町の稲荷堂

西町の稲荷堂は、小牧市小牧4丁目、名鉄小牧線小牧駅の西360mに位置し、豊川稲荷を祀る宗教施設です。名古屋市東区に所在する尾張徳川家の菩提寺である建中寺の霊廟の拝殿を明治5年(1872)に移築したもので、現在小牧市指定文化財となっています。この建物は桁行3間、梁間2間の規模で、屋根は入母屋造り棧瓦葺きの建物で、正面に1間の向拝、後方に廊が付いており、拝殿であったことが分かります。柱は粽(ちまき)付の面取角柱とし、周囲に縁を廻らし、内法長押(うちのりなげし)を付け、頭貫(かしらぬき)、台輪(だいわ)を廻し、斗栱(ときょう)は出組とし、中備(なかぞなえ)に板臺股(いたかえるまた)を入れています。向拝は上下に粽付の几帳面取の角柱が礎盤にのっており、柱の間には虹梁(こうりょう)が架かっています。内部は天井を格天井(ごうてんじょう)とし、漆塗や極彩色を用いた装飾は霊廟建築の一般的な様式を見せています。

〈参考文献〉愛知県の近代化遺産(平成17年、愛知県教育委員会)
愛知県の近世社寺建築(昭和55年、愛知県教育委員会)



外観(南から)



拝殿内部



愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室

TEL: 052-954-6783

E-mail: syogaigakushu@pref.aichi.lg.jp

